

台本は姫路出身の作家、椎名麟三が書き、演出も手がけた。そのミュージカル「姫山物語」が上演されたのは、1963年のこと。古代の播磨を舞台にした作品で、満員の客席は熱気であふれた◆成功させたのは終戦とともに文化を復活、振興させた姫路市民ら。演劇や音楽、美術などの団体が集結した。主演した日本舞踊家の坂東大蔵さん（84）は「椎名さんの演出は厳しかった」と述懐する◆翌年、この舞台に関わった団体を母体に生まれたのが、姫路地方文化団体連合協議会（姫路文連）だ。初代会長は黒川録朗さん。姫路空襲の記録も編集した文化人だった◆それから半世紀、姫路文連は市民主体の活動を続けてきた。美術館の建設運動を進め、公演やシンポジウムに取り組んだ。近年は、地域文化を語り合う連続講座「茶座」などに力を入れる◆もうひとつ、忘れてはならないのが「姫路文化賞」。50回目の今年には音楽家と現代美術家を表彰した。3代目の会長を務めた坂東さんは「市民自ら顕彰してきたことは誇り」と胸を張る◆一方で課題もあると現会長の小坂（おさか）学さん（64）は言う。「次の世代へのバトンタッチが難しい」と。だが「市民の手で文化のみえるまちづくり」という姫路文連の看板は色あせてはいない。若い人が歴史を継ぎ、播磨の文化を支えてほしい。<神戸新聞 正平調 2014・12・17>（神戸新聞WEB版より転載）



「ミュージカル姫山物語」初演記念写真（昭和38年11月16日、出典：姫路文連HP）



（中央タキシードの方が、秋月先生）